

子ども会未来夢

高崎市子ども会育成団体連絡協議会

(こどもかいみらいむ)

高崎市高松町35番地 (郵便番号: 370-8501)

高崎市教育委員会事務局青少年課内 電話: 027-321-1297



第51回高崎市子ども会「上毛かるた大会」の様子

平成22年度 行事予定 (案)

| | | | | | |
|---------|--------------|----------|----------|-------------|--------------|
| 4/8 | 総会 | 高崎市役所 | 7/下旬 | 球技審判監督会議 | 高崎市役所 |
| 4/25 | 写生大会 | 群馬の森他 | 8/21・22 | 球技大会 | 和田橋運動広場 |
| 5/9 | 球技大会審判講習会 | 青年センター | 10/中旬 | すもう審判講習会 | 未定 |
| 6/6 | 校区代表者研修会 | 青年センター | 10/31 | すもう大会 | 未定 |
| 6/27 | 野外活動講習会 (前期) | わらび平森林公園 | 10/23・24 | かるた審判講習会 | 榛名体育館・青年センター |
| 7/17・18 | 野外活動講習会 (後期) | キャンプ場 | 1/上旬 | かるた市大会審判打合せ | 未定 |
| 7/6~11 | 写生大会展示会 | イオンモール高崎 | 1/23 | 市上毛かるた大会 | 浜川体育館 |
| 7/10 | 写生大会表彰式 | 榛名文化会館 | 2/中旬 | 安全会説明会 | 未定 |

※ この予定は、変更になる場合があります。※

市上毛かるた大会

2

参加校区少なくも各コー トで熱戦を繰り広げる

平成二二年一月二四日(日)高崎市浜川体育館において高崎市子ども会上毛かるた大会を開催しました。今年のかかるた大会は新型インフルエンザの流行により、全五一校区中二〇校区が校区や地区での大会が行えなかった等の理由により不参加となつてしまひ三一校区参加での実施となりました。前年と同じく各ブロックの個人戦団体戦ごとに二〇の対戦コート全一一〇コートを用意しての大会でしたが、一次リーグを例年五校区リーグ・五回戦方式を三校区リーグ三回戦方式に切り替えたためか、対戦のないコートが目立ち少しさみしい大会となりました。

大会にあたり前日準備から協力をお願いいただいた校区役員さんや校区審判員の皆さん、協力会の皆さん、参加児童のためにご足労をいただいた校区監督をはじめ多くの保護者の方々に感謝申し上げます。大会結果は以下のとおりです。なお、各ブロックの優勝・準優勝の個人・団体の皆さんには二月七日(日)に開催された県競技大会に出場していただきました。

大会結果は以下のとおり

▽団体戦一・二年の部

優勝 大八木子ども会(中川小)

森田 豊 高橋 空

佐藤 祐太

準優勝 倉渕五区子ども会(倉渕)

原田 晟矢 栗田ひまわり

中澤 悠真 関 裕南

第三位 中泉子ども会(桜山小)

茂木 万莉杏 星野 孝仁

白須 ななみ 南雲 丈

第四位 下小鳥子ども会(六郷小)

木村 健人 吉田 尊

藤巻 真菜 金澤 諒果

▽団体戦三・四年の部

優勝 館双葉子ども会(寺尾小)

加藤 雅也 武藤 崇

江原 瑞生 木内 隆聖
準優勝 下小鳥子ども会(六郷小)

武部 文音 新井 乃愛

小坂橋 眞 増田 華於

第三位 横町子ども会(倉賀野小)

中澤 美月 矢尻 美咲

亀山 潤奈 米谷 優里

第四位 天神町子ども会(塚沢小)

小島 佑介 門傳 日之介

門傳 歩子 小峯 杏子

▽団体戦五・六年の部

優勝 王塚子ども会(金古南小)

齋藤 菜生 山宮 結衣

津久井 涼

準優勝 菅谷子ども会(桜山小)

飯島 春香 須田 開斗

関口 耕平 藤森 美穂

第三位 筑縄子ども会(六郷小)

田野 百夏 堀口 真希

長井 梓紗 新井 初音

第四位 岩鼻子ども会(岩鼻小)

清塚 有紗 小池 栞

門倉 咲 小泉 志保

▽団体戦中学生の部

優勝 倉渕六区子ども会(倉渕)

上原 一輝 小池 彩香

市川 大樹 塚越 蓮

準優勝 保渡田子ども会(上郊)

藤井 勇気 塚越 久倅

金古 颯

第三位 新町第十区(新町第二)

佐川 緋奈乃 米田 絵美

内藤 瑠美

▽個人戦一・二年の部

優勝 鈴木 さくら 宮谷 戸子

ども会(下里見小)

準優勝 須藤 大空 東三子ども

会(城東小)

第三位 石川 黎旺 上中居第二

子ども会(佐野小)

第四位 福田 伊吹 菅谷子ども

会(桜山小)

▽個人戦三・四年の部

優勝 東野 将人 足門9区子

ども会(金古南小)

準優勝 島田 百楓 井出子ども

会(上郊小)

第三位 堤 結莉香 本村子ども

会(車郷小)

第四位 永井 咲 館双葉子ども

会(寺尾小)

▽個人戦五・六年の部

優勝 伊與久 杏奈 蟹沢子ど

も会(車郷小)

準優勝 江原 若菜 飯玉第四子

ども会(塚沢小)

第三位 竹鼻 麻衣 上小埴子ど

も会(六郷小)

第四位 友松 祐季 井出子ども

個人戦中学生の部

優勝 中司 蘭奈 菅谷子ども

会(桜山小)

準優勝 福田 華和 井出子ども

会(上郊小)

第三位 中島 駿伍 倉渕六区子

ども会(倉渕地区)

第四位 吉崎 眞衣 新町第十区

子ども会(新町第二小)



→選手宣誓をする前年度小学校高学年の部優勝の塚沢小学校の選手たち

ちびっすすまぐ大会

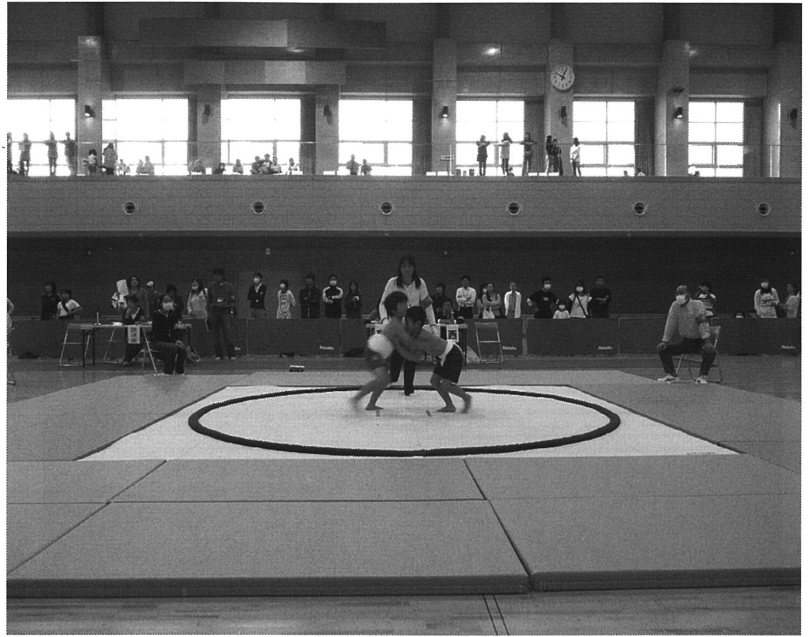
礼に始まり礼に終わる、勝つても負けても健闘たたえ合う精神で大会実施

平成二十二年二月一日(日)榛名体育館で第二九回高崎市子ども会ちびっすすまぐ大会を開催しました。

「健康な身体をつくり、規則や礼儀を守り、お互いに相手を尊重する中から楽しさと喜びを学ぶ」の趣旨のもと、毎年開催し今回で第二九回を数えました。

本大会参加者数は、インフルエンザの流行中にも関わらず二五校区・一四三名の子ども達が、団体戦男女別で低学年の部(一〜三年生)・高学年の部(四〜六年生)および個人戦は男女別に一・二年生の部、三・四年生の部、五・六年生の部に分かれて熱戦を繰り広げました。

対戦は、日ごろから練習している子、体力に自信が有り初めてすもうをする子、体格の大きい子、小さい子、さまざまな子ども同士の取り組みが行われました。その中で勝つても負けても必ず最後には挨拶をし、



お互いの健闘を讃え合いました。また、応援している家族の方からは、「ガンバレ!」「諦めるな!」との声援も飛び交い、親子共に大変白熱した大会で終えました。

そんな光景を見て、すもうを通して大会の趣旨でも有ります「礼儀」や「相手を尊重する気持ち」・「みんなで楽しむ心」が育ったように思います。

大会成績は、以下のとおり

- ▽団体戦高学年の部(男子)
- 優勝 長野小校区
- 準優勝 金古小校区
- 第三位 宮沢小校区
- ▽団体戦高学年の部(女子)
- 優勝 倉賀野小校区
- 準優勝 城東小校区
- 第三位 東部小校区
- ▽個人戦一・二年の部(男子)
- 優勝 中島康太郎(下里見小)

- 準優勝 福田 光治(京ヶ島小)
- 第三位 秋山 隆之介(塚沢小)
- ▽個人戦一・二年の部(女子)
- 優勝 鈴木 由佳(倉賀野小)
- 準優勝 清水 香那(久留馬小)
- 第三位 坂口 愛依莉(豊岡小)
- ▽個人戦三・四年の部(男子)
- 優勝 樋口 雅人(上室田小)
- 準優勝 川浦 滉平(京ヶ島小)
- 第三位 下山 輝(久留馬小)
- ▽個人戦三・四年の部(女子)
- 優勝 松井 梨紗(西小)
- 準優勝 増山 愛理(浜尻小)
- 第三位 早野 那奈(長野小)
- ▽個人戦五・六年の部(男子)
- 優勝 駒井 段之丞(六郷小)
- 準優勝 下山 慶(久留馬小)
- 第三位 佐々木 靖幸(久留馬小)
- ▽個人戦五・六年の部(女子)
- 優勝 小林 由衣(長野小)
- 準優勝 清水 愛(宮沢小)
- 第三位 早野 弥咲(長野小)

吉井町子育連と合併
昨年6月の高崎市と吉井町の合併に伴い、高崎市子育連と吉井町子育連が本年4月に合併します。これにより、小学校58校区を擁する大組織になります。

上毛かるた真大会へ参加

平成二十二年二月七日(日)に群馬県総合スポーツセンター内群馬武道館において第63回上毛かるた県競技大会が開催されました。

高崎市からも小学校低学年の部(三・四年生)・高学年の部(五・六年生)・中学生の部のそれぞれに個人・団体ともに、高崎市の大会で優勝・準優勝の個人・団体の校区に参加していただきました。

それぞれの部門とも健闘し熱戦を繰り広げて頂きました。

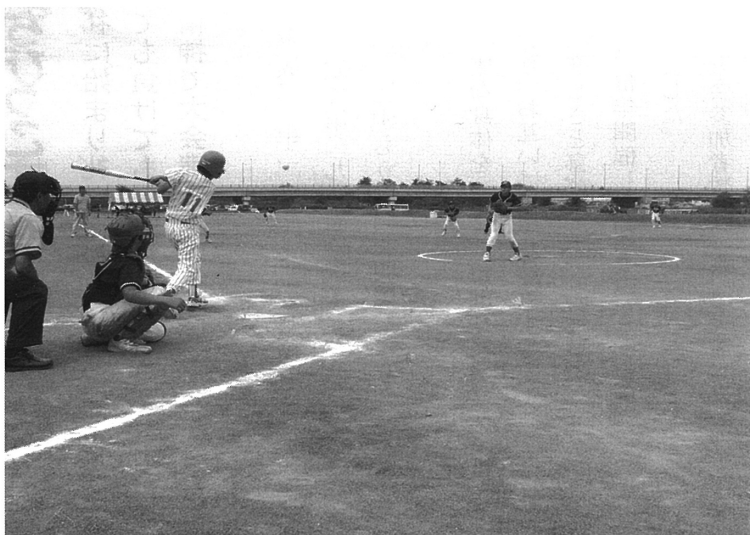
高崎市代表として出場していただいた選手で各部門の上位入賞をされた方々は以下のとおりです。

- ▽小学校低学年の部 個人戦
- 第四位 東野 将人 足門九区子ども会(金古南小)
- ▽中学校の部 個人戦
- 第四位 福田 華和 井出子ども会(上郊小)
- 第六位 中司 蘭奈 菅谷子ども会(桜山小)

球技大会

今年度からドッチボールを加え、ソフトボール・ポートボールの三競技で熱戦を展開

平成二二年八月二日(土)と二三日(日)の両日高崎和田橋運動公園において第四二回高崎市子ども会球技大会を開催しました。参加は、ソフトボール二九校区、参加児童約四四〇名・ポートボール二九校区、



参加児童約三五〇名・ドッジボール六校区参加児童約一〇〇名の他に、たくさん校区役員さんの協力により開催できました。

ソフトボールは四コート、ポートボール三コートドッチボール二コートで熱戦が繰り広げられました。今年度は合併後旧高崎市以外の地域からの参加を如何にしたら得られるかとドッジボールの競技を実施してみました。参加校区は少なかつたのですが、協議前にルールの

確認を行ってから試合を行いました。準備不足、周知不足等のなか参加してくださった校区には好評を得たように思えました。

無理難題の中、お手伝いを頂いた方々には本当にありがとうございます。大会結果は以下のとおりソフトボールの部

- ポートボールの部
- 優勝 片岡小学校区
- 準優勝 佐野小学校区
- 第三位 京ヶ島小学校区
- ドッジボールの部(低学年)
- 優勝 久留馬小学校区
- 準優勝 矢中小校区
- 第三位 下里見小学校区
- ドッジボールの部(高学年)
- 優勝 下室田小学校区
- 準優勝 久留馬小学校区
- 第三位 上室田小学校区

球技審判講習開催

球技大会にさきがけ校区審判員の皆さんが集合し、講習会を行いました。



平成二二年五月一〇日(日)高崎青年センターにおいて球技大会審判講習会を開催しました。この講習会は球技大会に参加する校区の審判員の方々がルールを確認していただき、大会当日の運営や協議進行に役立てるために開催しました。当日は、午前中にポートボールの講習会を行い、午後はソフトボールの講習会を行いました。球技大会にご協力いただいた皆さんありがとうございました。

写生大会を開催

今年の写生大会はメイン会場での開会行事と写生が実施できなかったにもかかわらず大勢の参加により関連行事を開催しました。

第五三回写生大会が平成二二年四月二六日(日)く五月にかけて群馬の森公園をメイン会場として開催されました。四月二六日に群馬の森公園で予定していたメイン会場での開会式及び写生大会は朝方からの雨のため、残念ながら中止となつてしまいましたが、写生大会を予定通り実施したところ、開催日時を変更実施したところ、子どもに画用紙を配布し各自で作品作りをしたところなど、各校区、各地域で工夫を凝らして作品作りに協力していたことができました。

選出された特賞作品を集め各賞の選定を行いました。どの作品も力作揃いで甲乙つけがたく審査員の悩まれる姿が印象的でした。

展示会は六月二九日から七月五日までイオンモール高崎内のイオンホールにて特賞・金賞・銀賞作品の展示を行い多くの方が、ご鑑賞にご来場いただきました。来場者は各児童の力作に見入る方、作品レベルの高さに驚く方、友達や知っている子どもの作品を見つけて喜ぶ方々など様々でした。

表彰式は七月四日に箕郷文化会館において特賞・金賞の表彰を行いました。普段と違う表彰会場の雰囲気緊張気味の児童も、表彰状を受け取ると満面の笑みで喜びを表現していました。

以下各賞を受賞された児童名を紹介いたします。(特賞のみ掲載)

- ▽市長賞
田口 彩奈(京ヶ島小六年)
- ▽議長賞
戸矢 詩乃(新町第一小五年)
- ▽教育長賞
村田 遼河(金古小三年)
- ▽区長会長賞
清水 美穂(六郷小六年)

- 小山田 薫(城南小六年)
- 福田 愛華(倉賀野小五年)
- 関原 悠真(塚沢小六年)
- 桐瀬 彩良(豊岡小五年)
- ▽小学校長会長賞

- 中嶋 胡桃(西小六年)
- 水出 愛里(桜山小五年)
- 熊倉 青(堤ヶ岡小五年)
- 高杉 美帆(金古南小六年)
- 金井 佑気(城東小六年)
- ▽PTA連合会長賞

- 植原 詩穂(北小六年)
- 平良 遼太(佐野小六年)
- 松田 裕之(中川小六年)
- 金田 彩美(大類小四年)
- 小山 美月(箕郷東小六年)
- ▽社)観光協会理事長賞

- 佐藤 湧樹(南八幡小六年)
- 高橋 蘭湖(滝川小五年)
- 長井 千恵(東部小六年)
- ▽社会福祉協議会長賞
- 並木 悠夏(八幡小六年)
- 藤本 真佑(中居小五年)
- 福島 伽蓮(車郷小二年)
- ▽ぺんてる社長賞

- 神林 怜(南小二年)
- 山田 晴香(東小六年)
- 永井 咲(寺尾小三年)
- 関口 あすか(新高尾小六年)

子ども会活動体験作文募集

高崎市育連では、子ども会活動体験作文を募集いたします。

子ども会活動は、異年齢の仲間集団の中で豊かな活動体験を通して、子どもたちの成長を促すことを目的として活動を展開しています。今後子ども会活動をさらに充実発展させていくために、子ども自身に子ども会での体験を作文にさせていただいて、子ども会活動を推奨する目的で実施をします。作文内容は、子ども会活動(育成会主催行事を含む)に参加して自分自身で体験したことや感じた事などを作文にして、市販の原稿用紙2枚程度にまとめてください。

応募方法は、市子育連事務局(青少年課内)へ提出してください。応募作品には作文の裏面に、作文の題名、子ども会名、氏名、学年、住所、電話番号を記載してください。応募された作品は、市子育連広報紙等に掲載のほか子ども会活動啓発資料として使用させていただくことがあります。また、毎年8月末日までに応募いただいた作品の中から優良な作品については「群馬県子ども会育成団体連絡協議会の子ども会活動体験作文コンクール」に推薦いたします。

- 佐島 柚加里(国府小五年)
- 中島 慶一郎(下室田小六年)
- 石井 達士(中室田小五年)
- 新井 結希菜(下里見小五年)
- ▽文具事務用品組合長賞
- 今井 雄登(片岡小六年)
- 田端 俊也(長野小五年)
- 松田 笑佳(西部小六年)
- 伊藤 綺華(乗附小四年)
- 塚田 奈那香(浜尻小六年)
- 中島 小由紀(倉渚中央小三年)

- 遠藤 桜香(箕輪小五年)
- 島方 梨央(久留馬小四年)
- ▽市子育連会長賞
- 小塚 芹菜(岩鼻小六年)
- 清水 若葉(北部小六年)
- 小須田 欣恵(矢中小六年)
- 志村 鈴音(鼻高小五年)
- 古市 綾乃(上郊小二年)
- 野口 美雨(新町第二小四年)
- 長壁 花苗(上室田小三年)

リーダー養成講習会

市子育連では、子ども会のリーダーを養成することを目的とし講習会を倉渚町のわらび平森林公園キャンプ場において開催しました。

講習会は前期六月二十八日(日)に日帰り講習、後期七月一八・一九日(土・日)一泊二日で実施をしました。

概略の内容は、前期講習では午前九時からの受付後開会行事とオリエンテーションを行った後にレクリエーション講習を行い他校区の参加者の名前を覚え、仲良く行動できるための活動を行い、続いてリーダーになるための講話を聞きまし
た、その後KYT(危険予知トレーニング)講習と短時間に三つの講習を行い昼食に自分で持参したお弁当を食べました。午後は、後期日程の説明で後期講習の内容や持ち物などの説明をおこない、班別会議で同じ班になった仲間の名前を覚えるため自己紹介・班内の係分担と後期講習で分担して持参する調理用具の担当を決めました。その後の係

別会議では、班長副班長・食事係・生活係・保健衛生係・レク学習係に分かれ、各係の役割と仕事内容を担当役員から指導を聞き、班に戻って班員に伝達できるかの確認を行いました。その後再度班別に集合し各係から係別会議の内容を班員に伝えあいました。

後期講習では、開会行事の後フィールドワークについての危険防止講話をおこない各人で準備と身支度を整え高倉山にてフィールドワークを行い、下山後は班別で昼食に持参したお弁当を食べました。

午後は、最初にKYT実習で前期講習をさらに深めました。その後は班別会議で夕食のカレーライス作りの分担を話し合い、飯ごう炊飯とカレーづくりに挑戦しました、慣れない手つきで調理をする子供もいましたが、役員は「目を離すな、手は出すな」を原則に子どもたちに指導を行い子どもたちの調理を見守りました。出来上がった班から順次夕食にありつきました。同じ材料を使い同じ条件で調理したのですが、各班で見た目も味もそれぞれ違うカレーライスが出来上がりました。夕食後あとかたづけが済んだ班

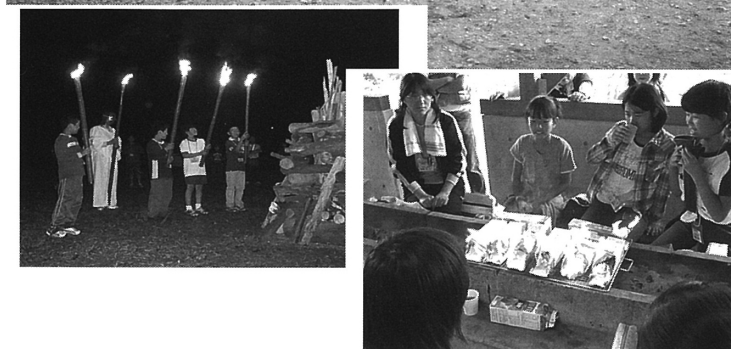
から自由時間をとりました。

少し暗くなるまで時間を待ってキャンプファイヤーを行いました。導入部分で役員によるレクゲームを行った後に、各班で考えた班別出し物を順番に行いました。それぞれの班が工夫を凝らした出し物を披露しました。そして、最後にまたレクゲームをして終了しました。

夜は、班ごとにバンガローにて、汗ふきや着替えを行った後に就寝時間ですが、友達になった班員と話をしていた寝付けない子どももいたようです。

翌日は、六時に起床・洗面をすませ朝のつどいとラジオ体操を行った後、キャンプ場から東南方向に開けている景色を眺め、朝のすがすがしい時を過ごしました。朝食を各班で作った班ごとに食べたあと、自分たちで使った調理道具や食器を後片付けて返却しました。そして今度は自分たちの荷物を整理しまとめて搬出し、一晩宿泊したバンガローを清掃しました。

レクリエーションには、frisbeeドッチを行いました。ボールの代わりにソフトなfrisbeeをつかったドッチボールみたいなゲーム



です。ボールと違い投げたfrisbeeが変化するので、また違った楽しみがあったようです。

昼食は、ホットサンドを作った食べました。背割りのコッペパンにレタス、玉ねぎ、ウインナー、ゆで卵などを挟み辛子マヨネーズやケチャップなどを付け、そのパンをアルミ箔に包み、一リットルの牛乳パックの中にそっと入れて、焼き肉用の網の上のせ、牛乳パックにライターで火を付けると、牛乳パックがゆっくりに燃えて、その熱でサンドパ

ンが温まって、とても美味しく食べることができました。

午後は、班別にキャンプ場内を散策しキャンプ場の新しいものを発見する班別散策を行いました。その後、この講習会の感想を書きました。二時半から修了書授与及び閉会行事を行い解散となりました。参加した子どもたちは、貴重な体験をした喜びと達成感を胸に校区役員さんの車で家路につきました。

小川哲生君

県優秀賞を受賞

昨年、群馬県子ども会育成団体連絡協議会主催の第一六回子ども会活動体験作文コンクールが実施され、高崎市から応募した小川哲生君の体験作文が優秀賞を受賞しました。受賞おめでとうございます。受賞した作文を紹介させていただきます。

リーダー養成講習会に参加して
高崎市立箕郷東小学校 小川哲生

僕の学校では「たて割り活動をしている。僕は班長だ。」

しかし、班のまとまりが悪かったり、周りの先生方に注意されたりするときには、「僕は班長としての行動が本当に出来ているのだろうか」と不安に思っていた。

そんな時、「リーダー養成研修会」についてのお知らせが届いた。悩んだ末、僕は参加することにした。理由の一つは、小学校最後の思い出を出るだけ作ってきたかったから。そしてもう一つ

は、自分は班長としての行動が出来ているか確かめるためだ。

係や役割を決めたりする準備の日のときに「せつかくの機会なのだから」と思い、思い切った班長になった。そして、様々な役割などを決めた。

そして、キャンプまでの間、様々な準備をし、期待をふくらませていた。

いよいよキャンプ当日。開会式を終え、高倉山へ登った。よくしゃべったが、危険な所は声を出して助け会えたので、そこは自分としては良く出来たと思う。

しかし、僕はビシバシ指導するより、できるだけ周りの人々の「やる気」や「意見」を大切にしている。だから班で物事を決める時は、全員で意見が出し合えた。

だが、少し班の仲間に期待し過ぎたせいか、いざというときの団結力に少し欠けてしまった。又、僕自身が大切な事を言い忘れてしまったり、注意されたりするなど、不注意もあった。

今回のキャンプを終え、このキャンプは「リーダー養成」研修会であることに意味があると感じ

た。「リーダー養成」がなければ、ただの楽しむだけのキャンプだ。

しかし「リーダー養成」があるからこそ、今までの自分が本当にリーダーにふさわしいか、振り返ることが出来た。そして、今までどんなリーダーに思われてきたか、気づく事が出来た。

しかし反省するだけでなく、その反省を、時にはみんなをまとめる時には先頭に立ってみんなを仕切る「リーダーらしいリーダー」になるためにどれだけ生かせるか。この事に真の「リーダー養成」の意味があると、僕はおもった。そして僕は、ここで沢山の「気付き」を、大いに羽ばたかせ、真のリーダーへ少しでも近付くために生かそうと、強く思った。



↑ 県表彰式の会場で発表する小川君

校区代表者研修会

この講習会は校区の役員さん子ども会の意義などを周知し、今後の子育連の運営に資することを目的として開催しました。

平成二二年六月七日(日)高崎青年センターにおいて校区代表者研修を行いました。

参加は四八校区総勢一〇八名の参加がありました。

この研修会は、高崎市内の小学校区の役員と、地域の単位育成会の役員を対象に実施しています。子ども会育成関係組織の役員であるならば知っておかなければならない基本的な知識と意義について研修を行うことを目的としています。

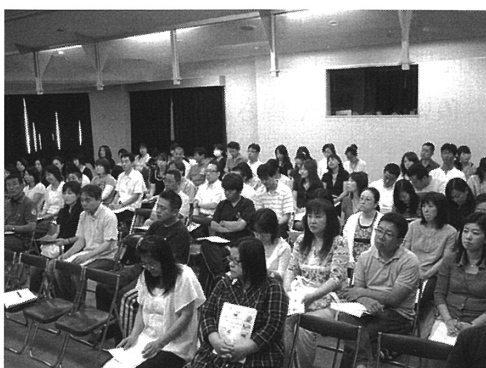
研修の第一部は「子ども会・その安全と冒険」と題した全国子ども会連合会制作のビデオの視聴を行いました。これは「子ども会」の意義とそのあり方について全国モデルとなる内容です。

その後には育成指導研修部会の石原副会長が講演を行いました。「子ども会」「子ども会育成会」「子育連」

「本部」といった様々な呼称がある私たちの組織の説明を試みたもので、「本来の子ども会」が存在しなくなってしまう現状とその課題を考えてみました。

研修の第二部は、「子どもの事故に対応するために」と題して高崎東消防署救急2係の救命士の方々に、応急手当や救命講習について研修を行いました。特に現在、普及が著しいAED(自動体外式除細動器)の操作の仕方も実演していただきました。

子ども会行事を支える育成会役員にとって、子どものケガに対する対応や準備は、怠ることができません。安全会活動とあわせて今後の重要事項になるでしょう。



子ども会育活動啓発資料(その1)

○子ども会とは・・・

子ども会は、小学1年生から中学3年生までを構成員とし、地域を基盤とした異年齢集団です。

子ども会とは、仲間と活動を共有することにより、その子ども・その子どもが参加している集団のより望ましい成長を意図した会であり、その活動はコミュニティ活動です。地域を基盤とし、よりたくましい子どもと子ども集団を実現しようとする活動です。

家庭、学校では与えることの困難であるが、子どもの発達にとって必要不可欠な経験を与えることを目的としており、家庭・学校はもとより、地域の諸集団や諸機関と強い連携を保ちながら、活動を進めていくことが大切です。その活動を支える指導者と側面から援助する育成者(会)が必要であり、この子ども集団と指導者、育成者(会)を含めた総称としても用いています。

子ども会活動は、子どもの成長にとって欠かせない活動です。この子ども会活動は、子どもたちひとり一人が積極的に参加することによって成り立ち、その仲間が継続的な活動の中で新しい体験を積み重ねることが出来る場であってはじめて、魅力的なものになります。そして、この子ども会活動を継続的に進めるためには、おとなの人々の理解と協力が必要であることは言うまでもありません。



○子ども会育成会とは・・・

子ども会は、その名のとおり子どもの手による子どものための会ですから、子ども会長を中心に子どもたち自らの手でやらせておけばよいのですが、とはいっても、子ども会の構成員はまだ心身ともに発達途上にあり、判断力も未熟な子供たちですし、団体活動にも慣れていません。

そこで、できるだけ子どもたちの自発性や創造性を生かしつつ、これを見守り指導援助して最終的に団体活動の責任を負う大人が必要なことは当然です。

そこが、青年団体・成人団体・PTAなどのおとなの組織とは違う点です。子どもたち任せで放任したままで良いとは言えません。子どもたちのよき相談相手となる指導者と、それらの諸活動がしやすいように側面から支援する育成者(会)があって、はじめて子ども会は活発に動き出すのです。

子どもたちのよき環境づくり、状況整備などにしても、個人の力では限界があり持続性にも乏しくなります。また、育成者が個々にばらばらに活動していたのでは、全く効率の悪いものになってしまいます。育成者がよりあってグループを作り、団体を結成し、組織的で継続的な一貫性のある活動を行うことで、個人の力ではなし得ない多くの仕事ができるのです。また育成者自身が相互に学びあうことを通して、よき育成者としての役割、よき親、よき社会人としての姿勢について学び合うことで、子ども会会員に良い影響をもたらすのです。

育成者が集まって組織的な活動を行うためには、会則、役割、会費、年間計画などを備えて育成活動を進めていかなければなし得ません。

子ども会は子どもたちの運営で進めていきます。育成会は子ども会を側面から援助しながら、大人自身の経験や知識を高めるために学び合い、子どもたちの環境を良くするために努力する育成会自体の活動が必要となります。育成会は大人の会であり、子ども会あつての育成会という関係があります。

この関係が基本であり、一番重要な事項です。子ども会と育成会の関係とその意義をもう一度考えていくことが必要ではないでしょうか？

☆ 編集後記 ☆

やっとの思いで出来上がった「広報紙」。作成中は、紙面をどのように埋めるかが課題でしたが、出来上がってみると、行事の報告文集みたいな紙面になってしまいました。m()m

お読み頂いた感想や皆さんからのご意見をお寄せ頂ければ幸いです。

発行責任者：会長 大塚 光男

編集担当者：書記 丸山 芳典

広報部会一同